

# "NOSOTROS"

「あなた」と「わたし」から、「わたしたち」へ

## グアナファト交流事業研修

広島県は2014年、同県に本社を構える自動車メーカー、マツダの工場進出をきっかけに、メキシコ グアナファト州と友好提携を締結しました。今後両者は経済分野での関係促進に加え、文化・教育、観光の分野でも更なる友好的関係の強化を目指していきます。

そしてこの度、私は広島県の研修生としてグアナファト州を実際に訪ね、両者間に築かれつつある様々な関係性について学ぶ機会を頂きました。その訪問先すべてについて報告することはできませんが、この研修を通して知ったこと、感じたことを、自分なりにまとめてみます。

## スケジュール(10/13-16)

--- 10/13 ---

- ①グアナファト州政府教育省表敬訪問
- ②在レオン日本国総領事館表敬訪問
- ③グアナファトアミーゴ会会食

--- 10/14 ---

- ①マツダメキシコ工場見学
- ②グアナファト大学外国語学科日本語コース見学・意見交換
- ③モヒガン工房見学
- ④グアナファト市内見学

--- 10/15 ---

- ①グアナファト補習校授業見学・生徒交流・図書贈呈・運営委員インタビュー
- ②イチゴ工場見学
- ③バレンシアーナ銀山・聖堂見学

--- 10/16 ---

自由課題



【グアナファト州教育省にて】サンチェス高等教育担当次官及び教育省スタッフの方々からお話を伺いました。

## グアナファトの今は、広島の今

豊富な銀の生産を背景として1520年代にスペインによって植民地化され、後に独立運動を率いるミゲル・イダルゴを輩出した地、メキシコ グアナファト州。自由と独立を象徴する地として、その歴史や街並みが世界に重要なメッセージを発信している点では、グアナファトと広島には何か深く通じるものがあるかもしれません。そして今、そんなグアナファト州と広島との関係が経済活動をきっかけに急速に展開し、新たな転機を迎えています。

### — グアナファト州の変化 —

近年グアナファト州では、自動車メーカー マツダとその関連企業を中心に日本企業の進出が相次ぎ、在留邦人数が急増。これをきっかけに2014年、グアナファト州と広島県は従来の「経済交流に関する覚書」に基づく交流関係からさらに進んだ、友好提携を締結しました。今年1月には日本企業支援、多様な領事サービス提供の必要性の高まりから在レオン日本国総領事館が新設され、2015年時点でこの管轄地域内(中央高原バビオ地帯)の進出企業数は452社(\*2011年比約2.3倍)に、在留邦人は3570人(\*2011年比約5倍)に上っています。州政府教育省サンチェス高等教育担当次官は、これによって日墨間の経済関係が促進されているのはもちろんのこと、文化交流、教育といった面でもさらに親密な関係が築かれつつある語ってくださいました。現に、昨年のセルバンティーノ国際芸術祭では招待を受けた広島県の神楽公演が大反響を呼んだ他、メキシコの高等教育機関における日本語学習者の増加、邦人急増に伴うグアナファト補習校の新設など、新たな動きや試みは確実に現れ始めています。今や経済的なつながりは文化的・教育的なつながりにも派生し、互いの関係を目の細かい編み目のように密に、そして複雑にしながら強めています。

### — 教育という課題 —



## マツダMMVOに潜入

2014年1月からメキシコでの量産を開始したマツダMMVO(Mazda de México Vehicle Operation)。メキシコを生産拠点とした主な理由は ①NAFTAをはじめとするFTA,EPA等自由貿易政策の充実 ②北米、中南米、欧州への輸送の利便性 ③為替対応力 ④勤勉で若い豊富な労働力 ⑤部品サプライヤーの集積 等があり、その生産事業において、①よき企業市民としての使命 (経済・自動車産業への貢献/環境保全への貢献/地域との交流) ②マツダの構造改革としての使命 (国内生産を中心とする構造から、円高にも対応できるグローバル戦略拠点をつくる) ③マツダのSKYACTIV技術を世界に広める使命 を背負っています。

高品質な車の生産を実現するため人材育成に最も力を注いでおり、結果2013年に200人を越えていた日本人従業員は2016年3月で約110人に、一方2013年に約100人だったメキシコ人従業員は現在およそ600人になるなど、現地化が着々と進んでいます。ひとつび工場に足を踏み入れれば、生産ラインの中は従業員が自ら考えた「カイゼン」の工夫でいっぱい。そこにはメキシコの人たちの考えとマツダの思想の共存が実現した姿がありました。ツアーの最後、水谷智春 社長は「メキシコの産業、地域経済の向上にも貢献し、メキシコ人に愛される企業を目指したい。」と仰っていました。



グアナファト大学の学生と工場を見学した後には、①マツダ工場を見学しての感想 ②自動車産業の進出によるグアナファトの変化 ③日本語/スペイン語を学習する理由・目的の変化 という3点について話し合い、プレゼンテーションも行いました。この写真が撮られた時の会話は以下。

私：「もともとなんで日本語を勉強しようと思ったの？」  
友人：「もちろん日本人の恋人が欲しかったから！(即答)はい、書いて！」私：「え、あ、はい…！」

えーと日本女性の皆さん、需要(?)あります… 笑

しかしメキシコが抱える課題のひとつ「教育格差」は、ここグアナファトも例外ではありません。現在メキシコでは、様々な理由によって途中で就学を辞める、あるいは諦める子どもたちが全体の約41%を占め、そのうち識字知識のない子どもたちがおよそ6%を占めているといます。グアナファトに関して言えば、特に高等教育機関(中学校以上)への進学率が約8%に留まっており、首都メキシコシティ(11%)との地域格差も問題となっています。サンチェス氏は、「トップが変わる度にあらゆる政策が根本から変わる傾向にあるメキシコ政治体制において、長期的な教育政策を打ち立てることは極めて困難である」としながらも、「今グアナファトでは、誰もが教育にアクセスできるような、未来を見据えた教育重視の政策こそ求められている」と仰っていました。そして近年の日本企業進出の増加に伴い、今多くの日本人子どもたちがこのグアナファトで教育を受けています。グアナファトが抱えるこの課題は、今や日本人にとっての課題でもあると言えるのではないのでしょうか。

## — グアナファト補修授業校ってどんなところ? —



【補修校にて】2名の運営委員の方から、学校設立までの経緯や現状について伺いました。

では実際に、日本人子どもたちはグアナファトでどのような教育を受けているのか。それを知るために、グアナファト補修授業校にお邪魔してきました。この学校は、グアナファトで暮らす日本人子どもたちが日本に帰国した際円滑に学校教育に適應できるように、そして日本語や日本文化に触れる時間を持てるようにと、地域日系企業による出資金およびグアナファト州の援助で設立・運営されている学校です。現在小中学生を合わせ100名を越える生徒達が、週末を使って国語と算数(数学)の学習、その他様々な行事活動に取り組んでいます。10月は運動会の準備にも大忙し。開会式では、メキシコと日本両国の国旗掲揚、国歌斉唱がなされるのだそうです。先生方も本当に一生懸命で、通常の学習に加えて平和や日本の習慣について学ぶ時間を取り入れる等、様々な工夫をなされています。現在補修校は、①防犯対策、②人材不足、③図書の不足など、様々な課題を抱えています。それでも運営委員の方々は、「この補修校にこれ以上望むことはない、ただここで友達と気兼ねなく思い切り日本語を喋り、日本の文化や習慣に触れ、自分が日本人であるということを忘れないでいてほしい。」と語ってくださいました。そして繰り返し強調されたのは、このような教育環境はグアナファト州の深い理解あってこそ成り立っているのだという感謝の気持ちでした。

各々の課題や、時に相克すらしうる夫々の理想・目的を、共に「わたしたち」のものとしてまなざすこと。それらを共に背負った上で、新しい未来を作ろうと試みること。私がこの研修で目にしたのは、様々な分野で互いへの敬意を基盤として手を取り合おうとする人々の姿です。グアナファトと広島、メキシコ人と日本人は今、「わたしたち」というひとつのチームになろうとしているのかもしれない。